磯田道史のちょっと家康（いえやす）み

第3話

2015年 徳川家康公没後四百年記念事業

いざ出陣！ 三方ヶ原

元亀3年（1572年）、三方ヶ原の戦いの日、浜松では珍しく雪が降っていた可能性が高いのです。徳川家発祥の地・松平郷（まつだいらごう）に残された『松平由緒書（まつだいらゆいしょがき）』にも「十二月二十二日の事であれば、寒くはあり、雪は深く」とあります。

通説では、武田軍は2万8千人前後、徳川軍は、織田信長からの援軍3千人と合わせて、1万1千人と言われています。しかし、織田の援軍はもっと多かったかもしれません。3千人といえば、わずか八万石の動員兵力です。当時の織田家は畿内まで勢力圏におさめ三～四百万石の力はあり、来援した武将の顔ぶれをみても「援軍3千人」は過小で不自然です。

事実、武田家の軍術書「甲陽軍鑑（こうようぐんかん）」には「信長、加勢を九頭までつかまつる」とあります。九頭＝2万人前後の援軍が準備されたとする史料は他にもたくさんあります。しかし、この援軍は岡崎・豊橋・白須賀まで広域に分散配備され、浜松城に集結していませんでした。

信長は武田軍との急戦をさける方針でした。「浜松城は出るな。援軍がたどり着くまで野戦はするな」と厳命していました。家康の家臣たちも決戦には反対で「敵は三万余。しかも、信玄は合戦慣れした侮れぬ武将。対する御味方は八千内外です」（『三河物語』）と、家康をいさめました。

しかし、家康公には、戦わなければならない事情がありました。自分の裏庭＝遠州の領土が武田軍に荒らされています。これに黙っておれば、遠州の人々は、家康のことを「ふがいない三河のよそ者。年貢だけ取って自分たちを守ってくれないダメ領主」と思って見限るかもしれなかったからです。

そこで、家康公は、こぶしを握り締め、意地を通すことにしました。「そんなことは、どうでもよい。戦に多勢無勢はない。天道次第である。」三河武士は忠義者です。家臣たちは家康公に「是非に及ばず（しかたがない）」と答え、命令に従って命を賭ける覚悟を決めました。武田軍を追撃するため、徳川軍は、雪の中を出陣してゆきました。

ところで、この「三方ヶ原の戦い」の情景を、浜松在住の日本一のジオラマ作家・山田卓司先生が作品化されます。私も鎧（よろい）や旗印などの考証で協力しました。幸い、歴史家を惚れ惚れさせるほどの緻（ち）密な名品に仕上がりつつあります。戦いの推移を何点ものジオラマで追っていく大作。とにかくすごい。完成が待ち遠しくて仕方がありません。1月21日㈬から、浜松市美術館でお披露目される予定です。

【次号予告】

「家康公、大敗を喫する」

《おわびと訂正》第1話の元亀元（1571）年は元亀元（1570）年が正しいです。おわびして訂正いたします。

おしらせ

非常勤職員（資格職等）の募集

人事課 ☎457・2081

勤務	定員	選考	任用
くらしのセンターにおける消費生活相談業務	3人程度	1月14日㈬	平成27年3月1日以降（任期は原則として1年間週30時間勤務）
中区社会福祉課における年金相談業務	2人程度		
中区社会福祉課における家庭児童相談業務	2人程度		
各区社会福祉課におけるケースワーカー補助業務	1人程度		

対象 資格要件がありますので、募集案内で確認してください。

申込 人事課で応募書類を受け、12月5日㈮から郵送または直接、人事課（〒430-8652 中区元城町103-2）へ【12月26日㈮消印有効】

※応募書類は郵送でも請求できます。「非常勤職員選考案内希望」と書いて、宛先を書いた返信用封筒（120円切手を貼った角形2号）を同封してください。また、市ホームページからもダウンロードできます。

市HP ▼ 非常勤職員採用情報 検索